

2月度「京都学ラウンジ ミニ講座」（開催報告）

平成31年3月4日
京 都 学 ・ 歴 彩 館
075-723-4835

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ ミニ講座」を開催しております。この度2月7日（木）から2月28日（木）にかけて「天下人のお召物～秀吉の直衣・家康の直垂」と題して、4回にわたり開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 日 時 平成31年2月7日・14日・21日・28日
いずれも木曜日13：30～14：00
- 会 場 京都府立京都学・歴彩館 京都学ラウンジ
- 参加者数 36名（7日）、38名（14日）、33名（21日）、26名（28日）
計133名
- 内 容
講師 京都府立京都学・歴彩館 京都学推進課 寺嶋 一根
「天下人のお召物～秀吉の直衣・家康の直垂～」（全4回）

第1回 公家と武家の装束 第2回 天下人の遺したもの
第3回 何を着て会うか、それが問題だ 第4回 直垂の下克上

■ 講座の様子

「就活生に相應しい服装で参加すること。」これはとある大学の掲示板に掲げられていた新卒生向け就職活動合同説明会のチラシに書かれていた一文である。日々の生活で着る服装は、個人的な趣味嗜好で選ぶことが多い一方、場に応じて服装を選ぶということがある。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった天下人でさえも服装の“堅苦しさ”から完全に自由という訳ではなかった。服装は着る人の社会的地位や権力、対面相手への認識などを映し出す鏡だからこそ、天下人たちがまとう装束の選択は極めて重要な意味を持ったのである。2月のミニ講座では、公家と武家、それぞれの装束の特徴について説明した上で、天下人が遺した衣服および公家の記した日記などを手がかりに天下人の服飾について講義した。武家の頂点に立った天下人が公家と相まみえるとき、何を着るのか。そこには天下人の目論見があったのである。各回30名近い参加者を得ることが出来た。各回質問も飛びだし、好評を得た。

